ラングストン通信⑪最終号

ラングストン大学アメリカヤギ研究所
塚原洋子

今秋のラングストンは、冷え込みの少ない、過ごしやすい毎日です。５年間の契約を満了し、この度ラングストン大学アメリカヤギ研究所を離れることになりました。全ての実験が 10 月中旬に終了したばかりで、プロジェクト主任研究員としてデータ分析、論文執筆、学会発表など残務は山積みですが、日本へ帰国してからの仕事になります。共に研究に勤しんできた上司や同僚、友人を始め、この広く美しい空や野生動物たちとも名残惜しいところですが、次の目標に向けてまた進んでいきたいと思います。

今号では、ラングストン大学アメリカヤギ研究所が世界中のヤギ研究者、生産者に向けて発信しているオンラインツールと出版物をご紹介します。ラングストン大学のウェブサイト更新に伴い、昨年から当研究所のページもデザインなどを一新しました。まだ、旧サイトから完全に移行していないページもありますが、徐々に更新予定です。

新しくなったウェブサイト
http://www.luresext.edu/

【研究、普及、国際事業のページ】

1. 研究活動

ラングストン大学アメリカヤギ研究所の施設、研究分野の概要と過去から現在に至る助成研究プロジェクトを閲覧することができるほか、プロジェクトの中で実際に行われた実験、客員研究員や大学院生の担当研究とそれぞれの研究成果を公開している。

2. 普及活動

一般向け講習会の日程と内容が掲載されていて、開催予定の「皮なめし講習会」、公開イベント「Goat Field Day」、「寄生虫と FAMACHA 講習会」、「精液の採取と利用講習会」「人工授精講習会」の参加申込書がダウンロードできる。また、研究所が出版している「肉ヤギ生産のためのハンドブック第２編」「肉ヤギ生産のためのハンドブック基礎編」「乳ヤギ生産のためのハンドブック」「乳ヤギ生産のためのハンドブック基礎編」の注文用紙があり、書籍の代金と送料の 15 ドルを添えて申し込むことができる。ただし、大学の規定により、クレジットカード決

済ができないこと、アメリカドル以外の貨幣を受け付けることができないので、申し込みの際は、IGA 日本支部 igajapancr@gmal.com までお問い合わせを。

3. 国際的な活動

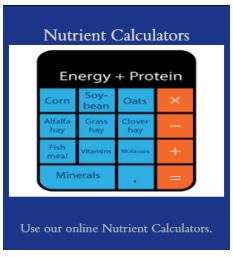
研究所が過去から現在に至って実施してきた、海外事業の内容が公開されているほか、2000 年にエチオピアで開催されたプロジェクト会議の講演要旨も公開している。また、2005 年にアメリカ国際開発庁から 550 万ドル（約６億円）の助成を受けて実施された「エチオピアにおけるヤギとヒツジの生産性向上」プロジェクト（５年間）では、豊富な資金を元に、品種改良・種畜配布を行って現地の貧困農民救済に努めたほか、多くの研修資料が農民へ配布された。

【オンライン研修のページ】

1. 肉用ヤギ生産者のためのオンライン研修と認定プログラム

アメリカヤギ研究所では、生産者向けに肉用および乳用ヤギ生産のためのハンドブックを出版している。このサイトは、その肉用ヤギ生産ハンドブックのオンライン版ともいえるもので、飼養、衛生、繁殖管理、育種改良といった基本的な生産技術から、ヤギ農家経営、ヤギ肉生産者として直面しうる法的問題に至るまで 23 単元を学習することができる。また各単元の後には簡単なテストが用意されていて、内容をどの程度理解したかを確認することができる。また全ての単元のテストに合格すると、ラングストン大学アメリカヤギ研究所認定生産者として認定される（認定証発行には 25 ドルかかる）。テストを受けずに内容だけを閲覧することもできるが、認定試験を受けるには登録が必要で、一旦登録すれば、合格するまで何度でも試験を受けられる。ちなみに現時点で、認定合格者は世界 11 カ国の 366 名で、日本人は 0 名。英語に自信のある生産者には、ぜひ試してもらいたい。

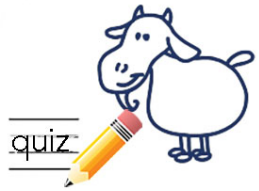
2. ヤギの栄養要求量計算機



家畜を健康かつ経済的に飼育するための給餌量の計算は、なかなか複雑で専門的な知識を要する。乳牛や肉牛では「日本飼養標準」が（国）農研機構から出版されていて、飼料設計のための計算プログラムも添付されている。ヤギでは「ヤギの科学」（中西良孝編、朝倉書店）にエネルギーと蛋白質要求量の計算方法が簡単に示されている。ラングストン大学アメリカヤギ研究所のこのサイトでは、エネルギーおよび蛋白質要求量の計算プログラムと飼料設計プログラムが英語、スペイン語、フランス語、中国語、ア

ラビア語で提供されていて、オンライン上で計算することができる。
計算機は、専門家版と生産者版の２つから選択することができ、前者はより詳細な内容を確認しながら、条件入力と計算ができる一方、後者は簡単で使いやすい。専門家版には、代謝エネルギー要求量、代謝蛋白質および粗蛋白質要求量、飼養環境による調整、飼料摂取量の各計算プログラムが組み込まれており、ヤギの品種や生育段階、体重、管理方法（舎飼い・放牧）などの条件を入力することにより、要求量の計算値が得られるほか、計算方法の詳細と引用元の文献も示される。生産者版では、アメリカの生産者が使いやすいようにヤードポンド法の単位が使われていて、専門家版と同様の条件をプルダウンメニューから選んで結果を得ることができる。さらに、この条件値と要求量の結果を用いて、対象とするヤギの飼料摂取量と適切な飼料設計を求めることができる。飼料設計に用いる飼料原料は、サイト内のライブラリーに収められているほか、利用者が新たに追加することもできる。もちろん、いずれの版を用いても、条件が同じであれば同じ結果が得られる。ちなみに、このサイトは 1998 年にアメリカ農務省の助成を受けたプロジェクトを基礎に立ち上げられたもので、2007 年にアメリカ科学アカデミーから出版された NRC（小反芻家畜の栄養要求量）と基本的に同じ内容であるが、新しい研究結果が出るとともに随時改定されているので、最新の情報が得られる。当研究所でも、新しい飼料を調整するときには、このプログラムを使っている。

3. ヤギクイズ



このサイトでクイズに参加すると、一度に 10 問のヤギに関するクイズが出されるので、プルダウンメニューから答えを選ぶ。全問回答後は、ページの下部にある「Submit Quiz」ボタンをクリックすると、正解と結果が現れる。いくつのクイズがあるのかは不明だが、毎回違うクイズが出てくるので、なかなか飽きずに楽しめる。また、ヤギに関するトリビア的なクイズ問題もあり、ヤギマニア必見である。

【オンラインライブラリー（電子ヤギ図書館）】

1. 活動報告

アメリカヤギ研究所における様々な活動を数年ごとにまとめたもので、研究所の歴史から、施設や職員・研究員の紹介、研究・普及・国際事業の詳細などを掲載している。写真が多い上に全カラーということもあり、人気のある冊子である。現在ウェブ上に出ているのは、創立期の 1992 – 2001 年版、栄養研究が最も盛んに行われた 2001 – 2005 年版、研究分野を拡大した 2006 – 2012 年版であるが、現在制作中の 2013 – 2016 版も近い将来掲載予

定である。

2. フィールドディ講演要旨

アメリカヤギ研究所が毎年開催している公開イベント、「Goat Field Day」の内容を冊子にしたもので、1998 年から 2016 年開催分までが閲覧できる。毎年 4 月の最終土曜日に開催されるフィールドディは、年ごとにテーマを決めて開催されるので、招待講演の内容などは開催年によって様々である。一方、午後の分科会では「ヤギの栄養」や「疾病管理」など、人気の高い 講習会が毎年同じテーマで開かれるが、研究成果を元に少しずつ情報が更新されている。

3. ニュースレター

年に 4 回発行されるラングストンのニュースレターが 1998 年冬号からウェブ閲覧用のデジタルコピーとダウンロード可能な PDF 版で公開されている。このニュースレターには、進行中の実験や海外研修員の研修内容、学会参加報告などリアルタイムな情報が掲載されており、「活動報告」より詳細な内容を知ることができる。また、海外からの訪問者は、写真入りで紹介されるので、ぜひラングストンを訪問して、ニュースレターの紙面を飾っていただきたい。ちなみに、このサイトの下方に購読希望者のためのボタンがあり、氏名、住所、メールアドレスなどを登録すると、無料で印刷版のニュースレターが自宅へ送られてくる。

このほか、オンラインライブラリーには、「ヤギの事実」「ヤギのボディコンディションスコア（英語・日本語・スペイン語)」「死骸を利用した堆肥づくり」「学術論文抄録と講演要旨」「ヤギのデータベース（アメリカにおけるヤギ肉の輸出入量)」「虫卵数検査方法」があり、それぞれのページへ進むことができる。また、バーチャルツアーでは、アメリカヤギ研究所の施設や実験機材、ヤギの写真が公開されている。このライブラリーからも、前述した出版物の注文用紙をダウンロードすることができる。上記全てのサイトは、研究所普及主任の Dr. Terry Gipson が担当している。何か質問などがある場合には、goat@langston.edu か igajapancr@gmal.com へ気軽にご連絡を。

eXtension <http://articles.extension.org/goat>

このサイトは、ラングストン大学独自のものではなく、アメリカ農務省食料農業研究所の事業であるが、アメリカ国内 70 以上の大学が専門分野の研究成果を反映している農業各部門の普及用ウェブサイトである。ラングストン大学のサイトで見つからない情報は、このサイトで見つけることができるかもしれない。